

な

ご

み

つ

う

し

ん

発行日：平成28年9月26日（第21号）

発行：島田療育センターはちおうじ

「いのちの授業」を終えて、生徒は「いのち」や「障害」をどうとらえたのでしょうか？  
そんな感想を紹介します（その1）。

所長 小沢 浩

## 「いのちの授業」の感想文

### （1）生徒の感想文

・いろいろな人の作文を聞いて、やっぱりこの命は大切にしないといけないとすごく思いました。障害がある人も、一生懸命頑張って生きているのだから、わたしも産んでくれた母や、ここまで育ててくれた家族やみんなに、感謝して、この命をむだにしないようにして、生きていこうと思いました。しかし、わたしは障害がある方が、すこしこわいと思ってしまいます。でも、その人も人間です。だから、普通に接していこうと思いました。命の大切さを忘れず、これからも頑張っていきたいです。



・目をつぶって立って、一回まわって、座るとい動作をしたときは、すごくこわかったし、立ったときよろけたり、座るときもどこに座ればいいのかわからなくて本当にこわかったです。だから、障がいのある人はこんなにこわいおもいを毎日してるんだなと思いました。きっとわたしにできることはあまりないと思うけど少しでも障がいのある人がよろこんでくれたり幸せな気持ちになってくれたらいいなと思いました。あと自分の命をこれから大切にしようと思いました。



・わたしの他に出てきたみんなの作文を聞いて、おもしろいものや、生まれて1カ月で手術したなどというびっくりする話もあって、みんながみんな、それぞれ、違った生まれ方をするんだなと実感しました。

生まれながら、障害を持っている方たちが、笑顔に写真にうつっているのを見て障害者でも、こんなに笑えるんだなと思いました。

わたしの兄は障害を持った子どもたちの学校の先生をしています。家に帰ってくると、Yシャツのボタンがぜんぶとられてしまったなど、いろんな話を聞きます。わたしの中でイメージが悪かった障害者の方たちでしたが、話を聞いてイメージが良くなりました。障害者の方たちを助けられるのなら、できることをやっていこうと思いました。



・今回は、「いのちの授業」という特別な授業をやってくださり、ありがとうございました。

わたしは今まで、とくに“生きる”について考えたことはありませんが、今回「いのちの授業」を受けて改めて、生きるということを考えさせられた気がします。わたしは、まだ13年しか生きていませんが、障害をもって

生まれた人たちは、わたしたちの何倍も苦労していると思います。障害者をあまり見ないわたしは、障害者のことをたくさん知る、いい機会となりました。今、わたしたち兄弟が障害なく元気にくらせているのは、親や周りの人が支えてくれるからだと思います。

わたしたちを支えてくれる全ての人に感謝して、わたしにさずけられた命を大切にこれから生きていこうと思います。今回教えてもらったことがこれから、わたしの人生にやくだっていくと思います。

・親がそんな気持ちをしていたなんてしらなかった。僕はいつも親にめいわくかけていて、困っていると思います。

これから親にはしっかりと生んでくれた恩返しをしたいです。「いのちの授業」を通して知的障害の子どもを見てビックリしました。あんな小さな子どもがかわいそうだと思ったことと、それでもいっしょうけんめい生きようとするにとっても感動しました。僕よりずっと強い人間になってくれるんじゃないかなあと思いました。

「奇跡がくれた宝物ーいのちの授業ー」  
(クリエイツかもがわ) より

